

## 輪風のまち・輪島を彩る イルミネーションでおもてなし

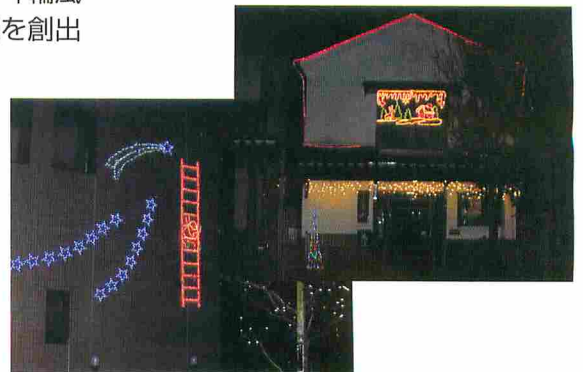
輪島市の馬場崎商店会では、11月12日にイルミネーションの点灯式を行い、街路樹や店舗に取り付けられた色とりどりのイルミネーションが商店街を幻想的にライトアップしております。

同商店会を通る馬場崎通りは、道の駅輪島から朝市通りに通じる輪島の観光の入口であり、街路整備をきっかけにした地域住民によるまちづくり活動として、輪島独自の伝統様式「浜屋造り」など輪島らしさを意味する「輪風(わふう)」を街並みづくりのコンセプトとし、歴史を感じさせる景観を創出しています。

また、同商店会では、「季節を感じる やさしい街づくり」を合言葉に、四季折々の飾りつけやイベント等を行い、このイルミネーションも、訪れる人々へのおもてなしの心をカタチにしたものの一つです。

このイルミネーションは来年2月末まで、原則、午後5時～午前零時まで点灯されます。

輪島市商店街連合会



農工商連携フォーラム in 富山 ～農林漁業者と商工業者の融合が新ビジネスを生む～ (商店街ニュースNo86に続く)

### 第1回農工商等連携事業計画認定事業の紹介 (フォーラムの資料から)

平成20年7月21日農工商等連携促進法が施行されましたが、第1期65件が認定されており、中部・北陸地域は6件(石川県1件、富山県2件、名古屋1件、三重県2件)。

① カットした石川県産野菜を中心にスチーム・ベジタブル化(加熱加工)した商品の製造販売

(川北町)(認定:平成20年9月19日 4-20-006)

中小企業者:株式会社セイツ

農林漁業者:有限会社くらた農産

急速冷凍加工による消費期限の長期化と外食産業等での野菜カット、ポイルなどの手間を省き、素材本来の栄養価を損なわずに野菜の色を保持する優位性で競争力強化と新市場開拓をおこなう。

② 高機能ハトムギエキスを加えた新しい「はとむぎ茶ゴールド」の製造販売

(氷見市)(認定:平成20年9月19日 4-20-004)

中小企業者:株式会社JAアグリひみ、株式会社CRD

農林漁業者:氷見市農業共同組合

連携参加者:株式会社ベルブリッジ、NPO法人代替医療科学研究センター、ニッポービバレッジ株式会社

焙煎技術の向上によりハトムギの食味を大幅アップさせ、ハトムギエキス、葉酸、ビタミンB6、ビタミンB12の添加により薬効が相乗的に向上した健康飲料としてブランド化。

③ 氷見の海からできたワイン生産及び関連商品開発・販売

(氷見市)(認定:平成20年9月19日 4-20-005)

中小企業者:株式会社釣屋魚問屋、有限会社シーフード北陸

農林漁業者:株式会社T-MARKS、有限会社日の出大敷

耕作放棄地を利用したぶどう栽培、廃棄されていた雑魚を肥料に加工し活用、販売は大手に固有のチャンネルを持っている社と連携、ワインを新たな氷見ブランドとする。

④ 乳業メーカーの殺菌・衛生管理技術を活用した高品質なシラス製品等の開発・製造・販売

(名古屋市)(認定:平成20年9月19日 4-20-001)

中小企業者:武儀商事株式会社、中部乳業株式会社

農林漁業者:高橋久二

連携参加者:日間賀島漁業協同組合

加熱水蒸気を利用した殺菌処理を行ったシラスの商品化。お互いの強みを活かして連携した事業

⑤ 尾鷲特産の甘夏みかんと、みえ尾鷲海洋深層水の塩で作る体にやさしい「夏柑塩」シリーズの製造と販売

(尾鷲市)(認定:平成20年9月19日 4-20-002)

中小企業者:おわせ深層水しお学舎株式会社

農林漁業者:NPO法人天満浦百人会

連携参加者:三重県工業研究所、三重県立相可高等学校

甘夏ミカンを皮ごと使用したブレンド塩開発で連携。

⑥ 日本初のタブノキから抽出したエキスを原料とするリキュールの製造・販売事業

(鈴鹿市)(認定:平成20年9月19日 4-20-003)

中小企業者:神楽酒造株式会社

農林漁業者:近藤緑化株式会社

連携参加者:株式会社JTB中部

タブノキエキスをアルコールで抽出した液体を原料とする新酒の開発。

JTBによる販売企画・販路開拓。

# TOPIC 1

## 玉川町通り商店街（金沢）、地域コミュニティの輪の結晶 ～一直線まつり・今年20年目むかえる～



11月8日（日）玉川子ども図書館オープン周年にあわせ、おまつり始まる。お祭の名前は今までと変わらないうえ、しかしその中味は、驚くほどの進化を上げていました。

近年とみに話題となり、先頃施行された新法の要となっている地域コミュニティの担い手としての商店街の役割をみごとに果たしており、地域の様々な人たちが連携・協働し、まちなかが公共空間として精一杯活かされています。

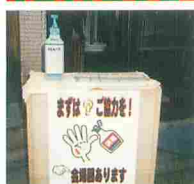
でも、何もましてすばらしいこと、それは、商店街の人々やおかみさん会の人たちが地域に溶け込んで楽しんでやっていること、それに地域の様々な人たちが参画して、お祭を地域の人みんなのものとして立ち上がったことです。スケジュールの時間配分もとぎれとぎれのないよう細心の注意が払われています。また通りのいたるところにおやすみ処を設け、入り口には、新インフルエンザ対策にスプレーが用意されており、用意周到万端整えた商店街の人たちの心配りには感謝です。

おまつりが、地域回響を演出されるよう、会場には工夫がいっぱいです。子ども縁日に興じる親子、子どもネイルアートに目を見張るお母さんたち、泥団子をつくろう、でツヤだしに苦労しているお父さん、フェイスアートでお互い見やっこしている子どもたち、たまちゃんハウスでどんぐり・木の実でうめたまづくりに余念がない親子が商店街おかみさんや児童館の方と話しながらの手づくりしに地域をあけて楽しんでます。

通りには、移動販売車の出動。お昼時長い列をつくらず。メロンパン、モグモグ黒たいやき、カレーライスに肉まきおにぎり、やきとりも登場。商店街の魚屋さんでは、お祭の特別出品。「鍋にするお魚はある?」、「たらがいいよ!」、「小家族だし」、「たらの切り身でどうかね」、お客と店主の会話がいつまでも続く。

今日で3回目。朝採れ野菜市。金沢山里朝市回廊連絡会4会員の協力で実現。医王山の土産を使った草だんご汁など各市の推奨品が並びます。車イスの人もかきもちの買ひ物です。乳母車できた若いお母さん方は、葉付き大根や金時草を手しています。

会場では、大道芸人・ジョニーさんが、図書館と商店街の間を行ったり来たり、



来街者を誘導します。時々立ち止まっては、いろいろな動物に見立てた風船を子どもたちにプレゼント。風船を手にした子どもたちが図書館と商店街の間を行ったり来たり、流れができていました。

交通整理の女性は、来る人ごとに声掛けしてくれています。「久しぶりやね」、「ゆっくりお祭見て行ってね」、まちなかが暖かくなります。

11時を過ぎる頃、手に手に風船を持った親子づれ、両手に袋いっぱい朝市の野菜などをさげて帰っていく主婦、おばあちゃんのカーゴは、葉付き大根が外にはみ出しています。

子どもからお年寄りまで、商店街の路地のおちこちからどんどん入ってきます。自転車に乗ってくる人、銀行の人がお世話しているフェイスペインティングされた子どもたちが通り過ぎていきます。青地に背に赤の法被の人、たまちゃんエプロンのおかみさんたちが行き交うなか、どこもかしこも人、人、人。

午後のひととき演奏ステージで、なつこのフォークソングが次々と披露される。商店街の人、おかみさん、地域の人もその仲間に加わり、いっしょに歌いだす。玄の調べにあわせ、「風にふるえる、緑の草原・・・」さわやかな歌声が通りにつつまれます。車椅子でこられたご婦人も聞き入っています。アンコールの声。歌は尽きることはありません。

午後3時、待ちに待った恒例のビンゴゲーム。「うめたま風船集合。豪華賞品に・・・」アナウンス。会場は、人の波。39、75、24、2、58、・・・リーチ、ビンゴ。おめでとう。豪華な賞品、地デジテレビです。次々に商品がゲット。

正午すぎ、演技場で「グッドマナー宣言」がありました。90番目の締結です。「美化清掃もグッドマナー、ぜひ実践を。グッドマナーで地域が元気、おめでとうございます」。お店の前にあるお花のプランターには、「グッドマナーはあなたから」、「きがねなあ、かさだかなあでグッドマナー」などなどのプレートが付けられています。理事長と奥様が夜通し作った手づくり品です。おみごとの一言に尽きます。

終日、玉川町通り。地域コミュニティの輪が結集した、にぎわいあふれるまちなかのおまつりでした。



# TOPIC 2

## 「朝市元気まつり」～珠洲飯田2・7朝市に新風～

珠洲飯田に流れる若山川の土手に咲き誇るすずきの穂が朝陽をいっばいに浴び、こがねいろに輝く、そんな心地よい秋日和の日。いつもと変わらない和やかな静かなまちなかに朝の目覚め。恒例の2・7朝市の日、しかし新しい形の「いち」としての様々な試みの第一日が始まる。珠洲飯田を象徴するまちの「顔」として機能し、まちなかに賑わいを創出するためにもこれからは、近郷の女性たちが採れたての野菜などを次々に運び入れ、地べたに並べ、さあ! 「いち」の始まりです。

朝市は、珠洲飯田を象徴するまちのシンボルとして、また地域の人たちの生活を支える大切な「いち」として機能しています。近年出店される女性たちもそろそろ高齢をむかえています。「○○さん、いつも来てくれるの、今日来ていないね」、「どうしたのかね」を聞くにつけ少し寂しく感じられるようになりまわす。

今日は「朝市元気まつり」。まちなかの更なる賑わいに、地域の大切な財産としてこれからも継続してその機能を十分に発揮していくための新しい試みです。

第一日目となった今日、10月17日はその取り組みの初体験の日となりました。地域で頑張り、地域を支える個性あふれるお店の人たちとのコラボレーションがこの朝市で実現しました。イベントをとおし地域の人たちとの協働が作りだす相乗効果はとても大きい。

「うまいもん横町」では、市内有名スイーツ店、メルヘン日進堂さん、シュークルグラスさん、シャポールさんの3店のご協力の洋菓子、パウム、シュークリーム、パンなどに人だかり、たちまちの内に売り切れも出、うれしい悲鳴です。「水産物コーナー」。浜口さん、浜野水産さんのご協力でも赤魚、ホッケの干物ははじめ珠洲めかぶ、あかもも、かじめ、あごだしなどの出品。商店街の松田商店さんからは八目うなぎの特売もあり、めずらしいものにあっつこち目移りします。

「交流施設狼煙コーナー」。珠洲特産大浜大豆のとうふ、おぼろ、豆乳をはじめとうふドーナツも販売され、さっそく朝ごはんの汁ものにと持ち帰る主婦が列をつくらず。

「梅コーナー」。若富喜会の女性の手づくり梅干、梅ジャム、しその実の佃煮、田舎煮、金糸瓜など。ゆずかんろ煮「これはおいしい!」と、つくり方を熱心に聴くお客さん、根づよいファンも多い。

「手づくり小物コーナー」「リサイクルコーナー」。シルバー人材センターワークショップによる、手づくりスリッパ、布バックをはじめ能登きりこ細工、積み木リサイクル商品に品定めする人手であふれる。

「いち」の女性たちは、季節を今盛りのりんご、かき、なしなどの果物を並べます。完熟した香気があたり一面に漂わせています。やまいも、里いも、ごぼう、大根、白菜、ねぎ、にんじん、ピーマン、ほうれん草、れんこん（これも地元で採れたもの）などなどみんな日常の台所でお目にかかるものです。売るほうも買うほうもみんな活き活きとした表情に笑顔が映える。口もついで軽くなり遠慮なくながながとおしゃべりをきめこむ。それを面倒がらずに笑顔で手振り身振りで対応する光景に感激。



商店街では、「いち」に新しい風を入れるとともに、まちなかの賑わいに貢献するため、「100円SHOP」をおこなう。今回が2回目。商店街のみなさんは、出店する商品はどんなものがふさわしいか、自店の商品を100円で売り出すと損を覚悟で売ることになるのに、という声もあります。また食べものを外に出すことに躊躇、という声もあります。売り出しチラシの印刷費分の代わりと考えれば、損して得を得る、という声も多く聞かれるようになりました。100円SHOPの極意（商店街ニュースNo85・09年6月30日刊）は3つです。一にいわく、100円商品は外に陳列すべし。二にいわく、外でお客様と会話すべし。三にいわく、100円商品の精算は店内すべし、です。お店の側からは、100円商品以外の通常商品をいかに売るかを考えることがコツのようです。さあ! 結果はどうだったでしょうか。

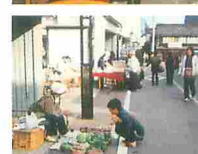
論より証拠とばかりまちなかに出てみました。どのお店も随所に工夫を凝らしており、つい買いたいものが手が出・・・次々買いたいものの連続。いつの間にかまちなかを隈なく歩いていました。玄米コーヒータンとヨモギ青汁で健康を売りもののお店やまち歩きのお食歩きにもってこいの肉入りコロッケ、シュークリームに大福、駄菓子にボン菓子、果物。

手造りシュシュ。「これは?」、店主から、「これは毛糸で編んだ腕輪です」。納得です。ボックスに、手造りたわしとあります。聞くところによると、おばあちゃんが毛糸を編んでつくったものとか。洗剤要らずで油よごれの茶碗洗いにしてもいい。環境に優しい商品です。肩のお手入れからネイルケアまで登場。いろいろな知恵がでるものだなあ、と感心しきり。折紙。印刷の端分だとか。これで折り紙楽しもうと買って行く親子づれ。当日の「お楽しみ」のお店もあり、多彩な発送で、みなさんの知恵の出どころ。ついついお店の中へ足を入れることになりました。一回で成功、これで終わりということはありません。100円SHOPは意識改革の代名詞です。ちょっとずつ、ちょっとずつ、みなさんと一緒に考え続けていくことが肝要とか。

お店のなかには、山下祥子さんたちほか7人の珠洲焼女流作家展もあり、壺、茶碗、急須などに女流作家ならではの繊細なところが作品にみちあふれていました。先頃、夢の2号館「珠洲焼ギャラリーショップ」が開店したこともあり、いろいろな作家さんの個性を楽しみながら珠洲焼を身近に手にすることができるようになりました。車で遠く足を運ばなくても、みんなが住んでいるところでゆったり落ち着いてまちを楽しむことができ、地域固有の魅力に満ちたコミュニティ空間づくりが遺憾なく発揮されていました。

お昼時、お休み処「だんだん」でさくさくの新米珠洲こしひかりの炊き立てのごはんをほおばり、とれたての魚のフライにお野菜、具だくさんのみそ汁などに身も心も大満足の日を楽しむことができました。

地域で頑張り、地域を支える人たちを加えた2・7の朝市の新しい形態の試み、100円SHOP、珠洲焼展をはじめ様々なイベントを同時開催するなどして、地域の人とおしのコラボを作りだす相乗効果はとても大きい、と実感・痛感した次第です。





# 「安全・安心なまちづくりに向けて ～明大前商店街振興組合の挑戦～」

東京・明大前商店街振興組合 本杉理事長による講演  
平成20年度第2回都道府県振連職員講習会から（平成21年1月26日開催）

## 1 はじめに

新宿・渋谷など大商業集積地に近く、狭い道路、鉄道による街の分断、客足が明治大等の学生・生徒が中心となっており学校が休暇に入ると客足は、激減、厳しい経営を余儀なくされる。このままでは、立ち遅れるとの危機感から4商店街で平成7年明大スタンプを発足。スタンプ発足を契機に4商店街合併し、平成8年11月組合が設立された。（世田谷区内最大の320店舗）

## 2 ビースメーカーズ

世田谷区最大の駅であり、痴漢や空き巣など多発ワーストワン。地元住民と商店街との消費者懇談会においても、生命、財産に対する不安を訴えるケースが多く、安全安心のまちづくりを商店街のコンセプトとしパトロール隊編成が喫緊の課題となる。

### ○MP発足

- ・平成13年10月 10名のボランティア隊員で即日パトロールを開始。
- ・平成14年4月 駅前に民間交番完成（日本初）

### ○活動の状況

- ・民間交番：専従者が毎日9時から17時まで勤務。
- ・小学校へ警備活動：登校時に安全誘導、「あいさつ運動」で見守り実施。5～6人
- ・学生に度特啓蒙活動
- ・防犯パトロール活動：2～3人で1班編成、2チームでパトロール
- ・青パトカー導入：平成19年5月（日本財団から寄贈）
- ・特別出動：隊員は、45人確保。商店街関係者以外も多数。

## ○成果

- ・平成15年4月NHKで放送され、大きな反響があった。パト服があつという間に80万着（20億円）売れる。
- ・平成16年犯罪減少、激減。地元の消費者が安全安心の明大前商店街で買い物しようか、との声多数聞くようになる。
- ・平成20年度内閣総理大臣賞・警視総監賞、その他多数受賞
- どんな風にまちは、変わったのか。
  - ・女性客が、夜間明大前で降車するようになる。
  - ・明大が、安心安全なまちとして定着した。結果、不動産業者がこの地に6倍に増えた。
  - ・まちの人から、「おひねり」が。
- 7年間継続実施できたポイント
  - ・1週間に1回以上は出勤する。
  - ・1週間最大でも3回以上は出勤しない。
  - ・自分のお店が閉店する時間にあわせて出勤する。
  - ・女性は、2～3時、3～4人で出勤する。
  - ・最もうれしかったことは、小学生への犯罪がほぼゼロになったこと、目に見える形で効果があったこと、これが無ければ隊員の継続力もなかったと思う。

# 講演「地域を元気にするコミュニティビジネス ～商店街の活性化をめざして～」

有限会社コミュニティビジネス総合研究所  
代表取締役所長 細内 信孝氏

これからの商店街やお店・まちづくりには欠かせない、社会的企業としてのコミュニティビジネス（以下、「C・B」という）の役割、機能、発展、進化させるためのポイント、成功事例、ヒントや着眼などを学ぶ。（平成21年9月16日（水）小松商工会議所で）

## 1 はじめに

最近、日本でもとみに地域間格差が広がっている。この格差をどう埋めていくか、また勝ち残っていくか、そんな中でC・Bとどう取り組んでいくのか。

地域の困った問題をビジネスを用いて解決していく。自分のお店だけがもうかれればいい、という時代は終わった。商店街は、生活サービスを提供する場として捉えなおしていく。C・Bは、自らの地域を元気にする住民主体の地域事業。こういう風にC・Bを捉えて欲しい（長野信州新町商店街が展開する「ふるさとセレモニー」などの事例）。

## 2 C・Bの特徴

- ・住民主体の地域密着のビジネス
- ・必ずしも利益追求を第一としない、適正規模、適正利益のビジネス
- ・営利を第一とするビジネスとボランティア活動の中間組織的ビジネス

## 3 C・Bの発展・成長のプロセス

### ①「クラブ」が出発点

地域の問題に気が付いた人が行動をおこしていると、仲間が寄ってくる。「顔の見える関係」が必要。

### ②「協同組合的組織」

クラブが3年も続くと、企業組合、NPO、中間法人となっていく。

### ③「社会的企業」

さらに地域で必要とされると、ソーシャルエンタープライズに変わっていく。地域の「クラブ」、「協同組合的組織」を助成し、社会還元するため、利益をコントロールするマネージャーが必要となってくる。

この三者が相互にバランスよく多数存在するようになると、環境に強い地域コミュニティとなり、地域力が生まれてくるようになる。

## 4 期待されるC・Bの効果

### ①人間性の回復

### ②社会問題の解決

- ・地域ニーズに合った市民サービスが提供される。
- ・地域の社会問題解決にビジネスの視点を適度に入れることにより、継続性がつくられていく。

### ③経済的基盤の確立

- ・地域に対する投資が始まる。
- ・地域資源の活用、循環
- ・雇用の維持・創出

### ④文化の継承・創造

知恵やノウハウが継承されていく。

この4つがそれぞれ支えあう形でコミュニティの自立を促していく。

## 5 C・Bを支える人づくり

C・Bは、地域で顔の見える関係の中でそれを支える人々が必要です。格差が広がるなかで、ちょっとした支援者をつくらたり、サポーターがいたり、とこのような仕掛けがあれば芽が育ちます。

縦割り社会のため、なかなか横串が刺せない、地域で一体感がでない状況にあ

るが、これからC・Bをおこしていくためには、意識的にこのような支える人々をつくっていくことが重要です。

## 6 地域コミュニティから資金調達も可能

- ・スピカ パン債
- ・茨城NPOセンター とらい債（コミュニティレストランの資金）
- ・ア・ラ・小布施 宿泊クーポン（建設債）（ゲストハウスの資金）
- ・群馬県 愛泉債（県立病院医療機器購入資金）

## 7 C・Bの先進事例

### 【社会福祉】

- ・さいとう工房 障害の度合いに応じた電動車椅子販売
- ・cafe大好き（東京・調布）
- ・でてこいフォレスト（青森県下田市）ショッピングセンター内のデイサービス

### 【環境】

- ・雨水サクル研究会（東京・墨田区）高齢者の得意技（桶づくり）を活かす
- ・ユーズ てんばら廃油回収・ディーゼル油
- ・ドンカメ（栃木県・商工会）生ゴミ回収・有機肥料・地産地消・食育

### 【情報ネット】

- ・すみだリバーサイドネット（東京都墨田区）子育て中の母親の作成したHPで域内の中小企業等の情報発信し、女性の起業支援。

### 【商店街の活性化】

- ・アモール東和（東京都足立区）地域サービス会社（二足わらじをはく）

### 【食品加工】

- ・小川の庄（長野県小川村）おやきの製造販売で高齢女性の社会参加。

### 【観光交流】

- ・花農場あわの（栃木県宇都宮）ハーブ園の農村レストランで女性起業など

## 8 成功のポイント

- ・C・Bに携わる地域の人々の「自分おこし」（そこに住んでいる人たちの自己実現になっているか）に貢献しているか。
- ・地域が抱える問題解決に貢献しているか。地域社会の問題についての「暗いつぶやき」の解決にビジネスの視点を入れていく。
- ・結果として、新しい社会関係や協働関係を生み出しているか。横串を刺していく役割。
- ・地域コミュニティへの貢献と事業性のバランスがとれているか。赤字を出さない、マネージャーの育成。

## 9 成功への近道

- ・社会起業を意識して、マネージャーとそれを支えるワーカーを育成する。
- ・適任者がいないときは、マネージャーは、公募も可能。
- ・まずは、生活環境の起業化から始める。生活の質の向上を目指すものと取り組むなど。
- ・事業の柱を何本かつくり、全体で収支バランスを計る。
- ・自治体や企業は、積極的にC・Bに業務委託をおこなう。

## 10 映像による成功事例

- ・ココ・ファーム・ワイナリー（栃木県足利市）障害者雇用のワイン製造販売
- ・花農場あわの
- ・食堂CR（青森県浅虫）ワンコイン・健康食で高齢者健康づくり
- ・市民風車（青森県鯉ヶ沢町）